

ICT人材育成等について



太田 淳一 議員

問 国が目指す「ユビキタスネット社会」や、IT戦略本部の決定内容に示されている通り、今後国では、情報通信基盤整備やICTを活用した課題解決をしていく考えである。本市でも、それに応じたICT人材の育成が急務であると考えることから、今後の人材育成の取り組みについて伺う。



▲SNS南相馬利用者

問 創造推進事業に、ITコーディネーター養成講座や、中小事業者に対する情報技術活用経営改革セミナー等を盛り込んでおり、人材の育成を図っていく。昨年行った「相双技塾」は、今年度はレベルアップした講座を開催する予定。

問 以前の議会で「地域型SNSを活用したまちづくり」について質問したが、その後の進展について伺う。

子育て支援について



土田美恵子 議員

問 こんにちはは赤ちゃん事業について。厚生労働省が児童虐待防止対策事業の一環としてこんにちは赤ちゃん事業及び育児支援家庭訪問事業をあげております。この新生児訪問指導とこんにちは赤ちゃん事業の違いをどうとらえているのか伺う。

問 青少年に対するメディア接触の影響について伺う。子供とメディア対策委員会が子供とメディアの問題に対する提言を発表しており、乳幼児をもつ家庭、保育園、幼稚園、小中学校において働きかける考えがあるか伺う。



▲市立総合病院新生児室

問 民生員や地域包括支援センターにおいて内容をよく把握し関係機関と連携し各種福祉サービスに努めております。

先生方の指導力向上策について



今村 裕 議員

問 学力低下の原因として、①学校現場の多忙化、②学力に応じた指導が不十分、③躰などの家庭教育力の低下、④基礎・基本がなっていない、⑤学校週五日制の弊害等が挙げられる。今、先生に求められているのは、子どもの夢や将来像、生き方等をどう示していくのか、子ども個々への対応、アドバイスが不可欠である

問 学力低下の原因として、①学校現場の多忙化、②学力に応じた指導が不十分、③躰などの家庭教育力の低下、④基礎・基本がなっていない、⑤学校週五日制の弊害等が挙げられる。今、先生に求められているのは、子どもの夢や将来像、生き方等をどう示していくのか、子ども個々への対応、アドバイスが不可欠である

問 現在、教職員の目標管理と考える。また、先生方も互いの担任するものについて積極的に意見を述べ合ったり紹介することは殆どない。教師の能力・努力・実績が反映されず、魅力のない授業が続けられても待遇が同じでは緊張感のない職場と化してしまう。今こそ、教育現場の環境を変えるべきと思うがいかがか。



▲授業風景 (福浦小)

20年度本市予算の特徴について



小林吉久 議員

問 国、地方とも深刻な財政危機に直面しているが予算の特徴について伺います。

問 人口減少時代に入り、公共の担う役割を量的に拡大することは困難なことから、質の高いサービスを展開する。人材育成の方針による一人の能力には差はないと思っている。問題は目標に向かって達成しようとする精神力と、「やる気」に尽きる。職員一人一人の存在を高めることについて伺う。

問 仕事に対する意欲が大前提に挙げられる。同じ仕事をやるに当たって段取りの善し悪しが結果的に大きく違ってくる。目標管理制度など仕事の工程表を作るよう指導している。また適正な人事配置や人事管理、職員研修等の手段を講じながら人材育成を図っていくことにしている。



▲本庁3階執務風景

まちづくり政策について



湊 清一 議員

問 金場地地区の大規模店を活用するまちづくりについては、今秋に開店の予定だが、この大規模商業施設に係る固定資産税は、私の資産は約五千万円近い税収と考えます。この税収の四分の一、将来は半分程度を充当、真の中心市街地活性化策等のまちづくりに生かせる税金の使い方をすべきと考えます。地方では駅前が市の顔であり、まちづくりの委員会等の提言と本場に汗を流す独自計画やまちの核づくり発想の地区、団体に助成し、独自の中心市街地やまちづくりを進める政策の考えは。

問 行政としては、予算があれば使い方はできる訳で、本当に生きる使い方ができるか、商店街とまちなか住民の連携による景観形成や歩いて暮らせる歩道整備等熟度の判断である。



▲原ノ町駅前通り

問 牛島地区整備の提案だが、四倉町の蟹洗温泉等をモデルに烏崎住民や市民合意形成し、早急に解決し着工する考えは。

今こそ農業振興施策と重点的に



志賀 稔 議員

問 食品の安全性、バイオ燃料の需要増加、世界的凶作の不安等により国内の食料自給が強く期待される今こそ農業振興策に全力を挙げる時だ。最重要基本施策が基盤整備事業だが、支援策を強化して一層の促進を図るべきではないか。



▲基盤整備 (原町区江井地区)

問 小規模土地改良事業は市独自の制度で促進を図りた

問 小高江水路は文久年間二宮仕法で開設された百町歩を潤す重要な大型水路だが半分は未整備のため維持管理に苦慮している。この機に一層の整備促進を図るべきではないか。